

私は英語を学ぶ意味をここで考えてみたい。その前にこのような話題をここで書く私は英語が苦手であるし、TOEFLなどのスコアは人には絶対に言うことのできないものであるし、加えてこのゼミで英語係を担当しているが本当は会計係がしたかったということ強く言っておきたい。

受験生当時の私は本当に英語が嫌いであった。英語に関することのすべてが苦痛に感じた。しかし小学生の頃からずっとアメリカの文化や広大さ、優雅さに憧れる気持ちがあったのは覚えている。大学に入って英語を勉強しなくてはという義務感はなくなり、アメリカへの憧れだけが残った。1年生の夏に1週間ほどロサンジェルス知人の家へ遊びに行った。その時はアメリカ人との交流もそうはなく、知人に案内してもらうという観光であり、実際に憧れのアメリカを体験するというものであった。2年生の夏に今度は大学の語学研修に参加してみた。そこでは現地の大学の寮に入り、ホームステイもするというアメリカ人と接する機会も多いものであり、アメリカでの生活という実感がわくものであった。そこで発生したのがアメリカ人との会話の問題である。つまり英語でうまくコミュニケーションがとれないのである。しかし、私は英語をうまく扱えないことを当然のことと考え、開き直りとにかく相手に自分の意志を伝えることだけを考えた。単語だけの羅列、身振り手振りのボディランゲイジを使い間違いはかなりあったけれど量をこなし、とにかく会話をすることを恐れないようにした。そうこうしている間に外国人とのコミュニケーション自体が楽しくなってきたような気がした。

英語を学ぶ意味はここにあることを私は確信した。就職に有利だからだと英語を資格のように受験の延長として考える人が多いが、私にとってはそのような動機づけでは英語の勉強を継続させることはできない。英語を学ぶ真の目的はスキルの向上ではなく、外国人ともっとうまくコミュニケーションがとりたい、自分の意志を伝えたいし相手は何を考えているのか知りたいというものである。その後あたかも外国人に話しかけているかのようには私は英文を音読しながら勉強するようにしている。外国人とうまく会話をしている自分を想像しながら勉強しているので心なしか長続きしているように思える。